

## 令和4年1月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 令和4年1月26日(水) 午後1時30分

場 所 市庁本館3階 議会第2委員会室

|     |      |     |     |
|-----|------|-----|-----|
| 出席者 | 教育長  | 伊藤  | 博章  |
|     | 教育委員 | 築瀬  | 眞知雄 |
|     | 教育委員 | 油川  | 育子  |
|     | 教育委員 | 小瀬川 | 喜井  |
|     | 教育委員 | 福井  | 武久  |

|         |              |     |    |
|---------|--------------|-----|----|
| 事務局出席職員 | 教育部長         | 石亀  | 純悦 |
|         | 教育部次長兼教育総務課長 | 中里  | 充孝 |
|         | 教育部次長        | 大館  | 秀光 |
|         | 学校教育課長       | 熊谷  | 誠二 |
|         | 教育指導課長       | 南館  | 義孝 |
|         | 社会教育課長       | 三浦  | 幸治 |
|         | 是川縄文館副館長     | 松橋  | 広美 |
|         | 総合教育センター所長   | 河村  | 雅庸 |
|         | こども支援センター所長  | 大坂  | 吉弘 |
|         | 図書館長         | 田茂  | 隆一 |
|         | 博物館長         | 小保内 | 裕之 |
|         | 文化創造推進課長     | 佐々木 | 真  |

## 開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和4年1月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、油川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

### 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。

はじめに、議案第1号「八戸市奨学金条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いします。

### 議案第1号 八戸市奨学金条例の一部を改正する条例の制定について

(熊谷学校教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第1号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第1号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。はじめに「令和3年度第3四半期の業務報告について」は、事前に御意見、御質問をいただいております。

### 【令和3年度第3四半期の業務報告について】

(伊藤教育長)

まずは4ページ、教育指導課の「学校訪問（計画訪問・要請訪問）」について、福井委員からお願いいたします。

(福井委員)

私も数校一緒に学校訪問に帯同させていただきました。学校ごとに地域性を考慮した、特色ある取組や課題等に接することができ、大変参考になりました。資料には「各学校の取組状況の把握と指導・助言を行った」と記載されておりますが、現段階での総括として、各学校の取組状況で今年度良かった点、また

来年度改善を要する点がございましたら御紹介ください。

(南館教育指導課長)

まずは委員の皆様には、計画訪問の帯同、誠にありがとうございます。計画訪問につきましては、全ての市立小・中学校を対象に、授業力向上と校内研修の支援を目的として「わかった！できた！身についた！」が実感できる授業づくりへの指導・助言等を実施しているものでございます。

令和3年度の訪問を通して把握した市全体の成果といたしましては、各学校において主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、授業において発問や教材提示の仕方を工夫するなど、児童生徒の興味・関心を喚起するような働きかけが見られました。また、児童生徒が考えを表現したり、共有したりする場面において、一人一台端末の活用が見られました。

今後の課題といたしましては、児童生徒が必要感や切実感を持ちながら問題解決に向かうように、授業の導入から課題設定までにおいて、児童生徒自身に「問い」を持つように仕掛けたり、考えや立場の相違を可視化したりするなど、「問い」を共有できるような教師の働きかけを工夫する必要があります。また、一人一台端末につきましては、今後授業の狙いを達成するための一つの手立てとして活用を進める必要があります。これらの成果と課題につきましては、既に各学校にお伝えし、来年度の教育課程編成等に役立てていくようお願いしています。

今後も、学校訪問における授業づくりへの具体的な指導・助言を通じて、各学校の授業力向上の取組を支援してまいります。以上でございます。

(福井委員)

昔、私が教員をやっていた頃は、指導課訪問というと非常に緊張して厳しい御意見もいただくことありましたが、今では指導主事の方々が非常に懇切丁寧に説明している姿を見て、良い方向に行っているなと思っておりましたので、次年度も続けていただきたいと思います。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。関連質問ございませんか。

[質疑なし]

それでは次に入ります。同じく4ページ、教育指導課の「いのちを育む教育アドバイザー事業」について、福井委員からお願いいたします。

(福井委員)

コロナ禍の影響もあるかもしれませんが、以前では考えられない、人の命に関わるような病的とも思える自分本位な凶悪事件が多くなったように感じています。若年期において、このような事業は今後ますます必要になってくるものと思われれます。そこで「いのちを育む教育アドバイザー事業」で実施したオンライン講演会の状況について御紹介いただければ幸いです。特に子どもたちの反応はいかがだったでしょうか。また、その際の通信環境についてもお知らせください。

(南館教育指導課長)

本事業は、平成14年度より始まった事業であり、八戸市医師会から推薦いただいた産婦人科医と小児科医を「いのちを育む教育アドバイザー」として委嘱し、市立全中学校において、性に関する諸問題についての専門的な指導を行っていただくものです。例年であれば、年1回、アドバイザーが直接中学校を訪問し、生徒を対象に講演や授業を行うほか、講演の事前事後の調査や指導についても相談に乗っていただいています。しかしながら、コロナ禍ということもあり、昨年度は講演を中止しておりましたが、今年度はオンラインも活用しながら、2年ぶりに開催しておりました。

講演会の状況や子どもたちの反応であります。医療現場に立つ医師による専門的な話を生徒が直接聞くことで、命の尊さに触れるかけがえのない体験になり、性感染症を予防するための正しい知識の理解だけでなく、異性への尊重や親への感謝の気持ち、またLGBTに関することなどを含め、自分、そして他者の命を大切にしようとする意識の涵養につながっております。今年度は、新型コロナ対策のため7校でオンライン開催となりましたが、その7校からは「オンライン開催であっても、生徒たちは集中して聞いていた。」「生徒の心に話が沁みている様子だった。」などの報告が寄せられています。

また、通信環境についてであります。オンライン開催の場合は、講師のアドバイザーに総合教育センターにお越しいただいて、そこから講演を配信しております。GIGAスクール構想により整備された高速ネットワークを使用していますので、安定した通信環境で実施することができました。

教育指導課といたしましては、本事業が中学生にとって「いのちの教育」の重要な役割を果たしていると考えておりますので、来年度以降も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の対策を十分に図り、生徒が密にならないようにしたり、オンラインで行ったりするなどの開催方法を工夫しながら実施してまいります。

(福井委員)

ありがとうございました。他者の命だけでなく、自分の命も大切にするというような教育というのは、学校の先生よりも外部からお越しいただいた専門家からの方が、より説得力があると思いますので、是非これからも力を入れて拡大してほしいなと思っております。ありがとうございました。

(伊藤教育長)

関連質問ございませんか。

〔質疑なし〕

そのほか、委員の皆さんから御意見、御質問等ございませんか。

(小瀬川委員)

感想を申し上げたいと思います。7ページの「市民大学講座」についてです。昨年度の市民大学講座は中止になってしまいましたけれども、今年度はコロナ感染防止に取り組みながら無事に開催日程を終えられたことに安堵しています。会場の設営であったり、受講者の氏名・連絡先の回収、消毒であったりと、様々な御対応に感謝申し上げます。

実際に私も参加させていただきましたが、会場では講師の方が書かれた本の紹介シートが配られていたり、併せて市立図書館においても市民大学講座と連携して、その講師の方の本を非常に分かりやすく紹介したりと、受講者にとって手厚いフォローがされていることに非常にありがたく思っております。

私も参加してみて一つ御提案したいと思ったこともありましたので、お話をさせていただきます。毎年の講座の中に、男女共同参画意識啓発講演会を併催している講義があると思います。ここからは私の主観的な感想なのですが、会場を見渡しておりますと、家族や家庭をお持ちの世代の方が聴講されているように思われます。今年度のコウケンテツさんのお話等は、これから家族の形を作っていく、形を考えていくべき小・中学生にも聴かせたい内容だなと思いました。学校でも「SDGs」や「ジェンダー平等」などを学んでいるところもあるかと思しますので、先生の御都合もあるとは思いますが、例えば、講座の内容を学校に動画配信したり、講義当日の午前中に学校に出向いて講演いただくとか、色々な啓発というものに活用できるのではないかと考えておりました。以上です。

(三浦社会教育課長)

これまでの市民大学講座は、割と御高齢の方が多く印象であったのですが、今回の男女共同参画意識啓発講演会につきましては、コウケンテツさんということもあったのかもしれません、ちょっと顔ぶれが違う御参加があったようにも思います。まさに子育て中の方も多くいらっしゃったのですが、コウケンテツさん自身も子育てをしながら家族で家事の合理化をして、日々楽しみながら生活を送っているという話をされていて、そういう意味では会場からも大変良かったという声をいただいていた。

我々もそういう生活であったり、考え方であったりということを若い人に聞いてほしいなどは考えておりますが、動画配信等については、契約上できること、できないことがありますので、啓発方法については今後の研究課題かなと思います。あとは小瀬川委員から冒頭で話のありました図書館との連携という点では、講師の皆様はそれぞれに著書をお持ちですので、学校の図書室との連携とかは考えられるかもしれませんが。来年度以降も、児童生徒の皆さんにも興味を持っていただけるように取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんからございませんか。

[質疑なし]

#### **【令和3年度第4四半期の主な事業予定について】**

それでは次に入ります。「令和3年度第4四半期の主な事業予定について」、委員の皆さんから、御意見、御質問等ございますか。

(築瀬委員)

6ページ、社会教育課の「令和4年八戸市成人式」になります。12月に公会堂で行われた令和3年の成人式もとても素晴らしかったのですが、今回は東体育館での開催となりました。成人式の開催には、若干の懸念材量がないわけではありませんが、そういうのは要らぬ心配で、参加された成人の方々、スタッフの指示にきちんと従うなど、よく話を聞いて行動されていたので非常に興味しました。式が始まる

前は、当然ざわざわしているのですけども、式が始まると空気が変わるということで、けじめのある態度だと思っていた。式が終わった後に教育長と立ち話をしながら、八戸の学校教育の成果が少しでも出ているのかな、そうであれば嬉しいなと話していましたが、いずれにしても、このコロナ禍の中で様々なことがありましたけれども、無事に開催していただいた社会教育課並びに事務局の皆さんにお礼申し上げます。

もう一つ、次の「家庭の教育力充実事業」ですが、ちょっとした質問と感想です。ここに「子育て・親育ち講座」とありますが、これはいつも大事だと思っていたのですが、公共施設の休館、行事・会議の縮小が進んでいる中で、この1月26日、予定としては今日ですよね。それから2月1日の講座は予定どおり行われるのでしょうか。また、今後のこの講座の申込みは受けるのか、そういうところがどうなるのか、分かっている部分でお聞きしたいです。

(三浦社会教育課長)

「家庭の教育力充実事業」に関しましては、会場が学校となっておりますので、学校の方で特段の事情がない限りは実施する予定であります。社会教育課所管の施設ですと、公民館24館が現在休館中となっておりますが、本事業は、学校と幼稚園・保育園が主になって実施する事業ですので、学校などの会場の使用に問題がない限りは、予定どおり実施する方向で準備を進めているところでございます。

(築瀬委員)

ありがとうございました。分かりました。私は現職教員の時も、そして退職してからもですが、この講座はできるだけやっていきたい、やってほしいと考えているのですが、ここ2年間ほどはコロナ禍ということで開催が難しい状況が続いています。そういう中ですが、開催件数が少なくなったとか、コロナで中止になったからといって、この講座の実施をやめるとか、あるいは予算を要求しないとか、そういうことなく今後是非予算立てして、活用できるようにしていただければありがたいなと思っています。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか委員の皆さん方から御質問等ありますでしょうか。

(油川委員)

私からは10ページのこども支援センターに関連しまして、ここに記載されていないのですけれども、とても感銘を受けた取組がありましたので、御礼と感想を述べさせていただきたいと思っております。こども支援センター主催で、来月8日に幼稚園と認定こども園と保育園の教職員を対象に、幼児に関する八戸市の相談窓口についてオンライン説明会を実施していただくことになっております。教育委員会、健康づくり推進課、そしてこども家庭相談室の皆さんから、各課の役割とか連携の仕方、連携の在り方についてとても詳しい内容が伺えることと大変嬉しく思っています。このような説明会を企画していただきますことに、心より感謝を申し上げます。このことによりまして、多様な子どもたちを誰一人取り残すことがない支援体制が整えられる、構築されていくのではないかなと思っています。この説明会開催についての記載がなかったのですけれども、とても良い取組ですので、今後の業務報告や事業予定の中に是非記載していただけたらと思うのですがいかがでしょうか。

(大坂こども支援センター所長)

この取組は今年から開催することになったのですが、今年度配置いたしました幼児教育アドバイザーの活用等も含めて、まずは色々とお知らせということで実施いたします。それから、保健センターの中では、色々な窓口と連携しながら対応しているのですが、園の方や家庭の方に対しても、こういう場合はどちらのほうの窓口に行けばいいとか、そういうことをお知らせということもありまして、急遽ではありましたが工夫しながら進めていたところでした。今回は記載していませんでしたが、次回の業務報告の際には掲載させていただきたいと思います。

(油川委員)

はい、ありがとうございます。幼児教育を担う現場では悲鳴をあげるほど喜んでおりましたので、楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほかございませんか。

(築瀬委員)

今のことに関連して、私もとても良い取組だなと思って開催通知を見ていたんですね。ただ開催時期が、今ということですが、色々な事情があるのだと思うのですが、もし来年度もやるのであれば、年度当初にも説明した方がいいのかなと思ったりもします。今回は今回で、来年度の活用の説明ってことでいいかと思いますが、なので、そういった取組も今後していただければありがたいなと思います。

(大坂こども支援センター所長)

まったくおっしゃるとおりで、今この時期にやるというのは、4月以降にこういう取組をやりたいということを含めて、あらかじめ説明したいという意図がございましたので、年度前のスケジュールで組んだものでございます。

(築瀬委員)

ありがとうございます。そういう趣旨も書いてありましたので、来年度に向けての良い取組ですし、良いタイミングでの開催だなと思うのですが、私が言いたいのは1回きりにならないように、やっぱり新年度になると、また少し幼稚園のメンバーも変わったりする時期ですので、WEB研修なので気軽にできるわけですので、こういったことも工夫してもらえばありがたいなと思っていました。参加する側も、一気に何人もその会議を聞ければいいですけど、1回、2回と複数回あれば、園の方でも職員を分けて参加させることができるので、1人だけ理解していることがなくなると思います。

小学校の先生方に対しても、こういう総合保健センターの中の連携の話って、十分周知されているのかなと思ったのですが、小学校関係は何かあるものなのですか。

(大坂こども支援センター所長)

具体的な取組はやっていない状況です。総合保健センターと小学校とつながりとなると、保健師さんの

ところというよりは、こども支援センターとこども家庭相談室とかの連携が主になるかなと思うのですが、ちょっと色々と計画を考えてみたいと思います。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

(油川委員)

3ページの「5. 幼保小連携推進事業」について質問をさせていただきたいと思います。今、文部科学省における幼保小連携については、一人一人の発達を把握して早期支援につなぐということを目指して、「幼保小の架け橋プログラム」の策定に取り組んでいると思います。本市においては代表者会議が2月14日に予定されていて、今年度の取組についての話し合いが行われるということですが、来年度を見通した取組も含まれるかといったことを伺いたいと思います。お願いします。

(南館教育指導課長)

幼保小連携事業の中の代表者研修会についてお話しします。まずは、今年度を振り返ってということになります。コロナ禍ではありましたが、地区会に行って小学校が学校紹介したり、普段であれば幼稚園の園児さんも呼んだりもしましたが、今年度はオンラインで会開催したりと、そのような事例をこの代表者会議で紹介します。

来年度に向けてということですと、今考えているのは公開保育。全部の学校ができるわけではないのですが、小学校の先生が幼稚園・保育園を参観して、幼児教育のやり方等について共通理解を深めたり、またカリキュラム等を勉強したり、そしてそれを小学校の教育に役立てられるようにということで、できる範囲内で公開保育というのも公開しながら、代表者会議、研修会で紹介していきたいと思っておりました。あと、明日の校長会において、公開保育について各校長先生にお願いをする予定であります。

(油川委員)

新たな取組をありがとうございます。その際に入れていただきたいのが、「10の姿」を手掛かりにして、各園と小学校が共通の視点をもって、そして小学校であれば教育課程において、各園であれば保育計画の中に、具体的にそういう内容を盛り込まれたりしながら、そのように進めていただけたらと思います。年長児の5歳児の1年間、それから小学校1年生の1年間の見通しをもちながらやっていただけたらと思います。色々お考えくださってありがとうございます。

(南館教育指導課長)

はい。「10の姿」早速取り入れたいなと思っていました。来年度の教科等研究委員制度の中で、予定ではあるのですが、小学校教員がその「10の姿」を基にしながら、その接続期のカリキュラムについて研究、検討していく予定になっています。その際は、幼児教育アドバイザーの力もお借りしながら研究していくことになっております。以上でございます。

(油川委員)

ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。楽しみにしております。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

[質疑なし]

次に、「建物破損事故に係る損害賠償額の専決処分について」事務局からの説明をお願いします。

### **【建物破損事故に係る損害賠償額の専決処分について】**

(熊谷学校教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

次に、「第25回図書館を使った調べる学習コンクール（全国）の審査結果について」事務局からの説明をお願いします。

### **【第25回図書館を使った調べる学習コンクール（全国）の審査結果について】**

(田茂図書館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(小瀬川委員)

この作品については、休館期間の終了後にまた展示をしてくださるということですが、やはり実際の作品を手にとることによって、どのような研究方法で考えたり、調べを進めていたかが分かりますので、このコンクールの面白さということも伝わるかと思えますので、非常にありがたいなと思いました。また、せっかくですので、短期間でも南郷であったり他館であったりでも展示を御検討されてはいかがかなと思いました。

また、昨年同様、全国コンクールにおいても入賞をされているわけですが、この八戸市の地域コンクールで作品を審査されました先生方の目の確かさというものにも感動しております。調べる学習コンクールというのは、やはり着眼点であったり、テーマの選び方、根気、また保護者の方の御協力というものもあると思います。来年度も相談会を含めて、中学生の参加というのがなかなか難しいようにみておりましたが、中学生の参加にも期待しつつ、来年も楽しみにしたいと思いました。

(田茂図書館長)

御意見ありがとうございます。南郷や他館での展示ということで提案をいただきましたので、今後検討してまいりたいと思います。また、中学生の参加につきましてもPR方法も含めてちょっと考えながら、応募が増えてくれればなと思います。ありがとうございました。

(伊藤教育長)

そのほか、御意見、御質問等ございませんか。

[質疑なし]

次に、『八戸藩遠山家日記第十巻』の刊行について」事務局からの説明をお願いします。

### 【『八戸藩遠山家日記第十巻』の刊行について】

(田茂図書館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

そのほか、事務局からの報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

次に「その他」にまいります。本日は、教育委員会に対して、文化創造推進課から「八戸市文化芸術推進基本計画（案）」が提出されております。概要について、文化創造推進課から説明をお願いします。

### 【八戸市文化芸術推進基本計画（案）に対する意見について】

(佐々木文化創造推進課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいま説明のあった「八戸文化芸術推進基本計画（案）」について、委員の皆様方から今後の文化芸術振興に対する御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(福井委員)

基本計画を読ませていただきました。最初はこの一枚ものの概要資料を読んでいたのですが、私だけかもしれませんが、横文字が多くて辞書片手に内容把握するのが大変だなと感じていましたが、この分厚い計画を一通り読んで、非常にすばらしい内容で、難しい字に対する注釈も付いており、分かりやすかったなと思っておりました。

全体についての感想と要望を述べさせていただきますけれども、基本計画の策定に至った歴史的な背景

に加えて、アンケート調査結果などから目指す目標達成のための膨大な施策、そして施設の紹介や資料、一覧など、八戸の文化を発展させようとする情熱が感じられ、その労力に敬服しております。個人的には知らなかったところがいっぱいありまして、今後は是非紹介されている施設を訪問して書籍等も拝見したいなと思いを新たにした次第です。アンケートにもありましたけれども、これほどのものが故郷八戸にあるということが、一般市民には期待されるほど広く知られていないように感じました。施策が随所に明記されていましたが、是非とも今後教育機関と広く深く連携して、若い世代に浸透する施策を実行してほしいと願っております。

個人的には、駅とか街中に垂れ幕を掲げるなど盛り上げていくような計画やキャッチコピーとか、あるいは極端な話、いかずきんズファミリーがまた増えるとか、そういうふうな広報活動などについても多分考えていると思うのですが、もしそういうのがあったら紹介していただければと思います。

(佐々木文化創造推進課長)

この計画が策定されますとスタートしていくわけですがけれども、策定委員の方からも議論の中で色々な意見が出されました。キャッチフレーズとかを使ったり、計画本体だけだと分厚くて分かりづらいので、そういったWebサイトを作って分かりやすくしたらどうかという意見もいただいておりますので、その辺のPRについては今後考えていきたいと思っております。

(伊藤教育長)

そのほかございませんか。

(小瀬川委員)

感想を申し上げたいと思っております。私はこれを拝見して、市民アンケートの結果を興味深く見ておりました。そして、それ踏まえて作成しているんだなと思っていたところでした。まず142ページ、アンケート結果の間8の結果が非常に印象に残りました。文化芸術がもつ可能性を生かせる分野として、「教育」が一番に期待されているということです。それに続いて「まちづくり」が期待されているということでした。

「教育」や「まちづくり」というような観点で考えてみると、中心街には大きな公共施設、文化施設が存在しておりますし、子どもたちが文化や芸術の学びを深める「町たんけん」であったり、中学生になれば合唱コンクールを公会堂で開催したり、中心街を利用する機会は増えると思うのですが、そこで一緒に連携して、「教育」と「まちづくり」が発展できればなど、まず市民の方のアンケート結果とともに私も思ったところでした。

また一方で、102ページの間1の(3)と(4)の結果で、中学生の回答結果が非常に印象に残っています。「普段から何らかの文化芸術にとっても興味・関心がある」「どちらかといえば興味・関心がある」と答えた中学生は、半分の50%を下回る結果になっているということです。また(4)で「八戸地域に受け継がれてきている文化芸術に興味・関心がある」と答えた中学生は23.7%で、大学生・高校生にいたっては12.7%となっていました。この結果を踏まえて、八戸地域に受け継がれている伝統芸術についてちょっとお話ししたいなと思っております。私自身もお祭り等に参加をしますが、今でも昔からの知り合いから声をかけていただいたり、自分の子どもたちに対しても、地域の方から声をかけていただくということが多いです。こういった地域の伝統行事に八戸弁でいうところの「かだる」ことによって、自分も含め子どもたちが「おが

る」という環境で育ってきたので、やはりこういう伝統文化に触れる機会というのはすごく大事なというふうに思っています。二年間、三社大祭など地域のお祭りが開催できない状況にあって、こういったところからもこのアンケート結果が出ているのかなと思ったところでした。

計画の施策ですと、施策1「ふれる・ふかめる～文化芸術に親しむ～」といったところが、市内の子どもたちに非常に大切なのかなというふうに思っています。また、施策4「のこす・いかす～伝統の継承と活用～」というところが、人材の育成につながっていくのかなと考えていました。教育委員会でも「えんぶりの日の制定」や、子どもたちの参加や体験という点で学びの機会の充実を図っているところでありますけれども、次世代につながる若い世代の「おがす」というところ、そしてその親として土台作りというところにこの基本計画が生かされていけばいいなというふうに資料を見せていただいて思ったところでした。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんにかございせんか。

(油川委員)

私から感想と意見を一つ述べさせていただきたいと思います。この一冊拝見しまして、八戸の魅力というものを改めて学ばせていただきました。そしてこれに取り組んでくださっているスタッフの皆さんの熱意と御努力に関して敬意を表したいと思います。

感じたことなのですが、「過去」と「現在」と「未来」というものを非常に大事にしておられる、そのつながりというものも大事にしているということを感じたのですけれども、私としましては「未来」の部分をもう少し強化された取組があってもいいのかなと思っております。と言いますのは、将来の文化を担う子どもたちの豊かな感性を育てるというような取組ですね。実際の事業はなさると思うのですけれども、計画の取組方針の中に、具体的に「幼児」「子ども」といった記載が今一つ少ないかなと思いました。繰り返しになるのですが、将来の文化を担う子どもたちというところを言葉で表していただければ、さらに良いのかなと思いました。これまでの取組、本当にお疲れ様でございます。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほかございせんか。

(築瀬委員)

12月の教育委員会の研修会でも若干説明を受けていましたが、改めてこの基本計画について、教育関係を中心に見させていただきました。私も福井委員と同じように、意見を言う立場でありながら勉強不足で知らないことがあるものだなと感じました。多分これを見た市民の方々もそう感じると思いますが、そこがまた一つのきっかけになりそうな気がします。八戸のことを色々知っているつもりでも、知らないことがいっぱいあるんだなと、そういった刺激にもなる材料だなと思っていましたし、そういった面でも期待できると思います。

あと私も現職時代には、「学校づくり」は、「地域づくり」「まちづくり」と同じという考えでやってきたのですが、その合言葉の一つが「継承と創造」ということだったので、特に取組の中の「のこす・いかす」、

それと「つくる・いどむ」というところは、とても力強く感じましたので、これまでのものを大事にしながら、これからどう活かしていくかという視点で取り組んでいただければありがたいなと思っていました。

計画の表題だけ見れば固そうだなと思うのですが、中身を見ると柔らかいということで、地図とか絵とか写真とか、そういうのも含めながら、教育に関連するところを紹介されていますし、変な言い方ですけども、とても親しみやすい計画だなと思います。そういった点でも広く市民の皆さんに認識していただける取組だと思うので、まずは見ていただけるようにも力を入れてもらえればありがたいと思っておりました。膨大な計画策定、本当に頭が下がります。ありがとうございます。お疲れ様です。

(伊藤教育長)

以上ですが、よろしいですか。

[質疑なし]

それでは、ただいまの意見等をもって教育委員会の意見とさせていただきます。教育委員会といたしましても、今後も市長部局と連携・協力を図り、文化芸術から生み出される多様な価値を活用しながら、「学校教育」と「生涯学習」の更なる充実に努めてまいります。

こちらの案件につきましては、以上とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは最後に、委員の皆様方から何かありますでしょうか。

(小瀬川委員)

タブレットとデジタル教科書に関して御質問をしたいと思います。文部科学省では、2022年から小学校5・6年生と中学生を対象に、デジタル教科書を無料配信する実証実験を始める方針であると表明しているようですけれども、これに向けての取組や対応等があったら教えていただきたいと思いました。

また、学校訪問のときに、体育の授業や音楽の授業でクロームブック等を活用している様子も拝見していたのですが、今後さらにデジタル化が進んだ場合、例えば容量の面で問題が出ないかとか、そういった点もお伺いしたいと思います。

(河村総合教育センター所長)

小瀬川委員の御質問にお答えいたします。まず、デジタル教科書の無料配信の実験についてでございますが、こちらは文部科学省が進める「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」であり、学習者用デジタル教科書の教育効果を検証するとともに、使用するに当たっての課題を抽出し、解決策を実証的に明らかにするために実施する事業であります。本事業は今年度から実施されており、本市においても小学校5学年・6学年と中学校全学年を対象に、国語、算数、数学、社会、理科、英語の中から各学校が1教科を選択し実施してきているところであります。委員の御質問にもありましたが、文部科学省では2022年度も本事業を実施する旨の通知があり、本市でも今年度に引き続き実施することとしております。

実施内容につきましては、小学校5学年・6学年と中学校全学年を対象に2教科実施する予定でございます。

まして、まず英語を全小・中学校で実施するとともに、もう1教科は選択となりますが、音楽、図画工作、美術、保健体育、技術家庭科、いわゆる技能教科と呼ばれているものの中から、各学校が1教科を選択して実施する予定となっております。こちらの教科選択については、先日1月中頃までに県を通して国に提出となっております、既に各学校から希望をとって全校提出済みとなっております。

なお、学習者用デジタル教科書の活用としては、教科書内容を拡大、本文等への書き込み、それから英語のリスニング等が主な活用事例となります。各学校に対しましては、今年度の総合教育センターでの研修講座や要請訪問を通して、デジタル教科書の活用支援に努めてきておりましたが、今後も継続して支援してまいりたいと考えております。

もう一点、容量の面で問題はありますかという御質問ですが、各学校からは今年度を通して容量に関する問合せは一切ありませんので、順調に使われているというふうに捉えておりました。データ等については、本体だけではなく、クラウドも使いながらの使用となりますので、大容量の中で使われているという状況でございます。以上であります。

(小瀬川委員)

デジタル教科書は、今年度より進められていたということで失礼いたしました。昨年度に小中野小学校でクロームブックを実際に使わせていただいたとき、音楽の教科書に載っている音をまさに聴くことができました。紙の教科書やデジタル教科書でそれぞれの特性と言いますか、それぞれの良いところがあると思います。子どもたちの荷物軽減になったり、様々なところで活用されるといいなと思っていました。

また、コロナの感染者が著しく増加していますけれども、タブレットの持ち帰り等も含めて、オンライン授業への参加だけではなくて、中沢中学校さんのような体調管理のためのタブレットの活用等もありましたけれども、現在の活用方法や新しい取組等ありましたら教えていただきたいと思っております。

(河村総合教育センター所長)

まずデジタル教科書について補足となりますが、委員さんのおっしゃるとおり、デジタル教科書のみを使えば良いということではなくて、文科省有識者会議の方でも、24年度にデジタル教科書の本格導入を目指すことに対して、紙とデジタルを併用する必要があるというふうに聞いていましたので、そのように進めてまいりたいと考えております。

それから、感染症対策ということでのタブレット活用ということでしたが、今年に入ってから県内でもコロナ感染者が急激に増加してきておまして、各学校では、改めて感染防止と児童生徒の安全を最優先に取り組んでいるところであります。感染状況によっては、学級閉鎖等でやむを得ず登校出来ない事態も想定されますので、タブレットの効果的な活用も望まれているところでした。昨年9月末までに全ての市立小・中学校でタブレットの持ち帰りを実施しておまして、家庭におけるオンライン学習にいつでも対応できるよう体制を整えておりました。併せて、各学校にはこれまでの体制を見直して、さらに押し進めるということをお願いをしているところでもございました。そういうことも含めまして、今後も各学校の状況を見ながら進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

(小瀬川委員)

ありがとうございました。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから何かございませんか。

[なし]

## 閉 会

(伊藤教育長)

これもちまして令和4年1月の教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時51分閉会)